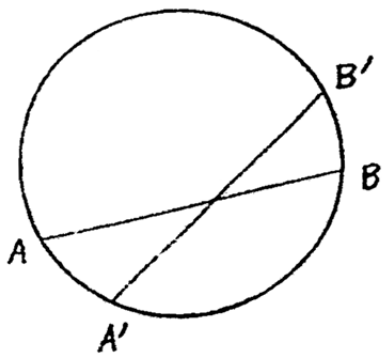


松村 宗治 (台北大)

(I) *Studia Mathematica*, Tom VII, p. 126 = 於ケル H. Auerbach, 論文 = 於テ面積, 重心ノ代リ = 弧ノ重心ヲ考ヘル。ツマリ弧ノ上 = 一様 = 質点ガ



配布シテキルトシテノ重心ヲ考ヘル。

ツマリ ABヲ心卵形線ノ一ツノ弦トシ A'B' 弦ヲバ  $\widehat{AA'} = \widehat{BB'}$  ナル様 = 引イテ面積ノ重心ノ代リ = 弧ノ重心ヲ考ヘル。

而スレバ Auerbach 1 論文ト平行ニ論ズルコトが  
出来ル。

結果ニ於テハ Auerbach 1 論文ニ於ケルト同ジ様ニ  
イヘルトコロモアリ、マタウシバカリ変化する所モアル。

(II) Auerbach 1 問題デ最初 AB ヲ上ノ條件ヲ満足  
スルヤウニカヘルト此等ノ弦ハ卵形線ヲ包絡スルコトニナリ  
最初 AB ヲ別ノ位置カラシテ出ルセバマタ別ノ卵形線ガ生ジ  
コトニ卵形線ノ群ガ生クル。ソノ群ノ内ニ原ノ卵形線モハイ  
ルシ尙原ノ卵形線ノ面積ノ重心モハイル。

弧ノ重心ノ場合ニモ同様ノコトガイヘル。

(III) 以上ノコトヲバ卵形面ニツイテモ論ゼラレル。

(IV)  $n$  次元ノ  $n-1$  次元ノ球ハ直角座  
標系ニ關シテ

$$v^0(X_1^2 + \dots + X_n^2) - 2v^1 X_1 - 2v^2 X_2 - \dots - 2v^n X_n \\ - 2v^{n+1} = 0$$

テ與ヘラレル。

コトニ  $X_i$  ハ流座標デアアル。

此ノ  $v^i$  ヲバ高須教授ノ論文(東北理科学報告, 第十七卷, P.  
220)ニ於ケル  $\xi$  ニトシテ同教授ノ論文ノ様ニシテ論ゼラ  
レル。

(V) J. Grünwald 1 論 (Ein Abbildungs-  
prinzip etc., Sitzungsberichten der  
kaiserl. Akad. der Wiss. in Wien,  
Math.-naturw. Klasse; Bd. CXXIII, Abt.

11a. April 1914, S. 3) を考へ

$$u_1 + u_2^2 - u_3^2 - u_4^2 - 2u_0 u_5 \equiv G_{\alpha\beta} u^\alpha u^\beta$$

トオキ河口教授が岩波講座 XI, p. 115, (第五章) = 於て説明サレテキル様ニシテ  $u^\alpha$ , 一次変換ヲ論ズルコトが出来ル。

(VI) 円系表面上ノ Radialnetz を考へル (Math. Annalen 19, S. 23 = 於ケル Voss ノ論文ヲ参照)。

然ルトキハ円系表面上ノ線素  $ds$  ハ下ノ様ニナル。

$$ds^2 = r^2 dt^2 + 2(\theta_t \theta_c) dt d\tau + d\tau^2$$

此場合 = Lagally ノ論文ノ様 (Math. Z. 6, S. 143) = シテ Flächentreue Abbildung を論ズルコトが出来ル。

トセテラバコノ場合 = ハ台北帝大理農學部紀要 II, p. 36 = 於ケル  $\lambda$  ハ 1 = 等シイカラザマル。

(VII) G. Scheffers ノ論文 (Math. Z. 5, S. 112) = 於ケル論究ガ円系表面ニツイテイヘル。ツマニ  $(\theta_t \theta_t)$ ,  $(\theta_c \theta_c)$ ,  $(\theta_t \theta_c)$  ノ間ノ關係ヲ此場合並ニ (VI) ノ場合ニ求メルコトが出来ル。